

說解  
麻雀必勝法講義  
全

特261

488

2

3



始





特251

3

3

488

說解  
麻雀必勝法講義

全



特26  
482

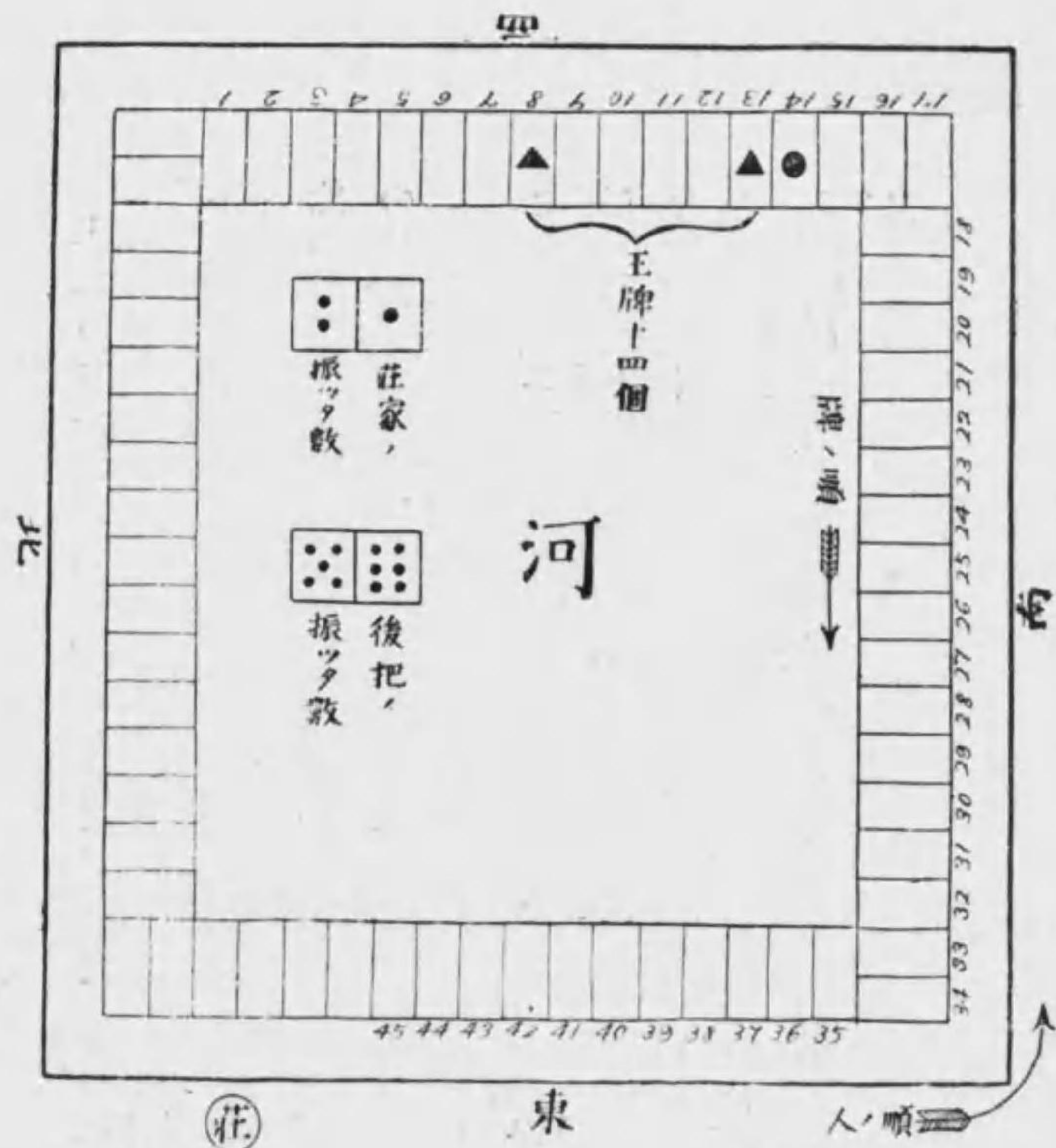


說解  
麻雀必勝法講義

全







圖の説明

莊家が振つた賽の目の数が三で後把の西家の数が十一で合せて十四となります。後把の前の●印の十四を開門して上の一個の牌を▲印13の上に下の牌を▲印8の上のせ三重れとします。8から13までの十二牌と尾を作つた▲印の二牌の十四牌が王牌となるのです。次に牌の分配ですが、東家は15 16、南者は17 18 西家は19 20、北家は21 22を取ります同様各自三回(十二個)取り四回目には東家39と41の上の牌だけ(二個)を取り、南家は39の下の牌(一個)を、西家は40の上の牌(一個)を、北家40の下の牌(一個)を取ります。井圍には41の下の牌から順にあるわけです。

莊家十四牌、散者十三牌であります。

新編麻雀必勝法精義 全



# 序

「日本人は室内遊戯に最も適した人間だ」と外國の或る人が云つた通り紹介されてから未だ何年にもならない麻雀が訪ね來る友の一人／＼の口からもれて來ます。

色彩の美と彫刻の雅、興味津々として汲めどつきす

此の優美高雅な興味は何者をもひき入れなければ止まない強い強い魅力をもつて我々の日常生活の内にくひ込んで來て居ます。

閉日を如何に楽しく過すか。交友の間を如何に圓滑和樂ならしめるか。

これは或る程度までは麻雀にて解決されると思ひます。従がつて麻雀を教へる書物も随分と澤山あります。これ等は皆支那の本場仕込みを振り廻し初心者に對して不可解な點が多くありました。よつて本書は此等の遺憾な點をのぞかんとして説明の無駄をはぶき初心者の理解に最も全力を注いで書いた心算です。

その點は他書より一步進んでゐることを自負して麻雀普及の爲多年の結晶を草した次第であります。

東京麻雀倶楽部の標上て

著者識

# 目次

|                                      |     |
|--------------------------------------|-----|
| ◎ 麻雀とは……………                          | 一   |
| (牌の組織と付屬のこと)                         |     |
| ◎ 麻雀用語の説明……………                       | 八   |
| 数字の呼び方……………                          |     |
| 場に関する名稱……………                         |     |
| 競技に関する名稱……………                        |     |
| 名稱……………牌に関する名稱……………役に關する名稱……………      |     |
| ◎ 競技法……………                           | 十六  |
| 起家の定め方……………牌の配り方……………開戦……………和了の型(七種) |     |
| ◎ 得點の計算……………                         | 二十九 |
| 一、誰にも共通な基礎得點(副)……………                 |     |
| 二、和了した者だけに適用さる得點……………                |     |
| 三、三線牌の得點……………                        |     |
| 四、得點の計算基準(得點取引)                      |     |
| ◎ 特別な上り役……………                        | 三十三 |
| ◎ 得點表示……………                          | 五十三 |



◎平 局……………五十六

◎作 戦……………五十八  
理牌……獨立した牌から捨てる……他の風から捨てる……老頭牌から捨てる

◎競技をする前に協定すべき条件……………六十

◎結 び……………六十一

◎麻雀得点記録表……………附録

—【目次終】—

# 解説 麻雀必勝法講義

東京麻雀倶楽部

麻雀とは

一體麻雀とはどんな事をして勝負をするのか？その説明だけは最も簡単であります。

自分の手に持つてゐる十三個の牌を適宜に「自摸」或は「碰」し「吃」して自分の持牌を十四個にして上るのであります。そして其の得点を計算して「勝つた方がえ」と云ふのであります。

この様に説明だけは非常に簡単でありますがいざ競技となると良く呑込までは複雑して居ります。この麻雀競技はトランプのオ



一クシヨン・ブリツヂと云ふ遊び方によく似てゐますから、これを知つて居る人は麻雀もすぐに呑込めると思ひます。

麻雀は普通百三十六個の牌と四個の風子と二個の骸子から成立つて居ります。

字牌

- 三元 中・發・白 各四個 十二個
  - 四風 東・南・西・北 各四個 十六個
  - 筒子(渦卷印) 一より九 各四個 卅六個
  - 索子(竹節印) 一より九 各四個 卅六個
  - 萬子(萬の字印) 一より九 各四個 卅六個
- この内の筒子索子萬子の一及び九を「老頭牌」と云ひ二より八までを「中張牌」と云ひます。

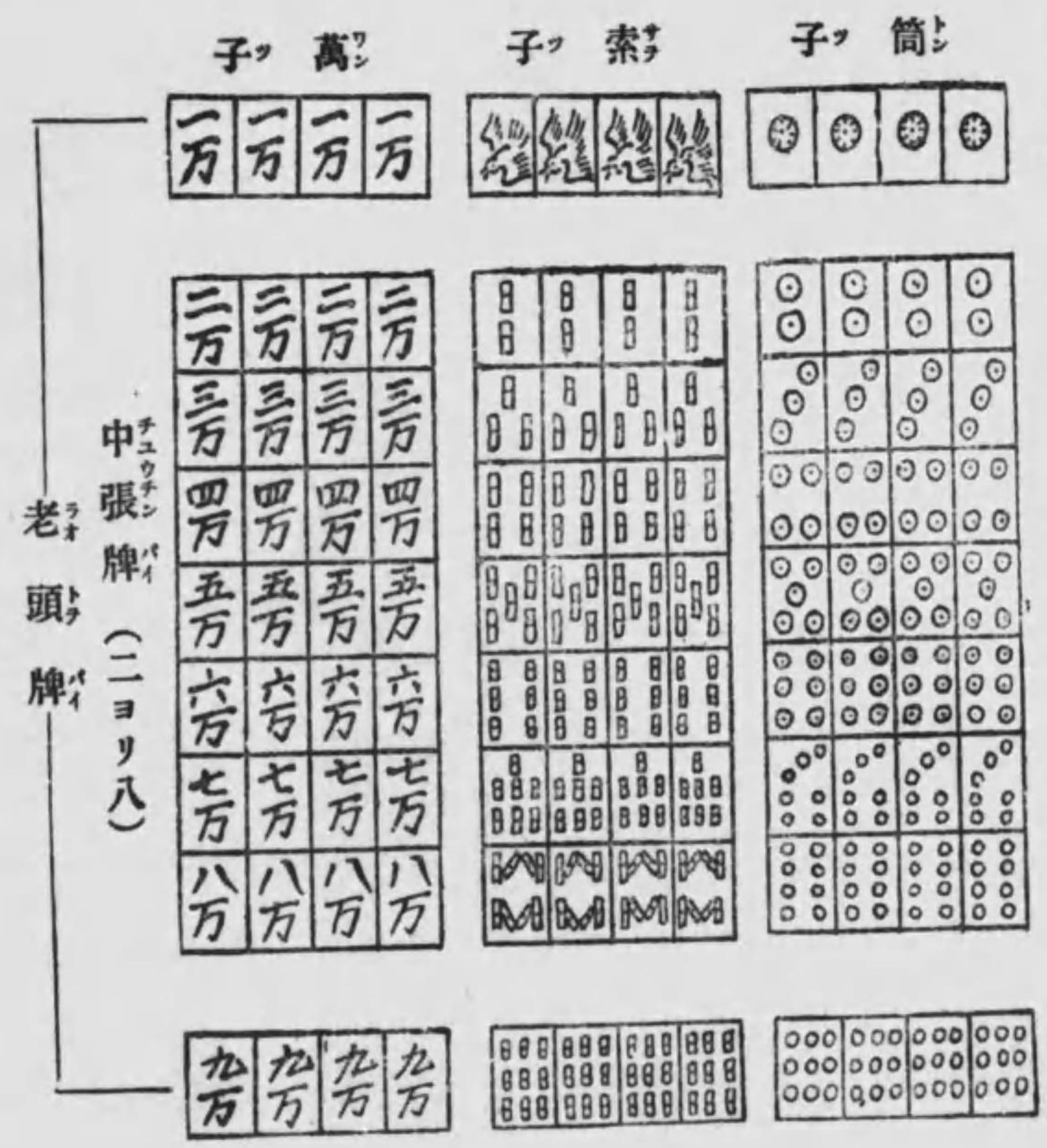
字牌 四風 牌

|   |   |   |   |
|---|---|---|---|
| 東 | 南 | 西 | 北 |
| 東 | 南 | 西 | 北 |
| 東 | 南 | 西 | 北 |
| 東 | 南 | 西 | 北 |

牌元 三

|   |   |     |
|---|---|-----|
| 中 | 發 | (白) |
| 中 | 發 | (白) |
| 中 | 發 | (白) |
| 中 | 發 | (白) |





この他春・夏・秋・冬・又は梅・蘭・竹・菊・の四個と漁・樵・耕・讀の四個とがあります。普通用ひませんからこの競技の説明は略します。

尙紛失の時の補充用として四個の白牌が付いてあります。又得點の計算に必要な計算器(籌馬)が添へられてあります。これには支那式と日本式があります。が厳密な規則があるのでありませんから競戯者自身の便利の良い方を選びます。

よつて本書に説明する計算器(籌馬)は近時麻雀俱樂部などで盛んに用ひられてをります。丸札計算器の使用法を述べてあります。これは計算の正確と時間の經濟とで我が麻雀フアンの間非常に歓迎されて居ります。

それで尙本部では更にこれを改良し初心者のよく呑込ことの出来る様製法と共に説明します。



この計算のことは「得点の計算」の頁で述べるのが本意ですが説明の便利のためこの頁にて述べることに致します。

計算器の製法——何の紙でもかまいません（なるべく厚く白い紙を可とす）五十銭銀貨大の丸札を百枚作ります。その百枚中二十枚を白のままをき他を次の様にして赤青黄の色で染めます。

- 八 枚を赤色
- 三十六枚を青色
- 三十六枚を黄色

この出来上つた丸牌の一枚に對して点数は次の様になります。

- 赤色一枚五百點
- 青色一枚百點
- 黄色一枚十點
- 白色一枚二點

この白・黄・青・赤の百枚で八千點あるわけです。

此の色で染めるが面倒でしたら何點何點と丸札の上に書いてもよいのです。

籌馬（計算器）の分配法——全部で八千點ある丸札を一人の分け前二千點として左の様に分配します。

- 一人の分配高
- 五百點（赤）二枚 千點
- 百點（青）九枚 九百點
- 十點（黄）九枚 九十點
- 二點（白）五枚 十點
- （計）二千點

この麻雀競技の得點計算はすべて四捨五入ですから一點の札は不用となるのです。



麻雀用語の説明

必ず支那語で麻雀をしなければならぬと云ふ規定はありませんがこれは支那の遊戯ですからやはり支那語で競技をしないと其の面白味が無いと思ひますから是非皆様に支那語でやるやう御進め致します。

これから麻雀をやらうとする方々はこの書に出てゐるだけの支那語は必ず記憶していただきたいのです。

先づ數の方からゆきます。

- 一 アル
- 二 サン
- 三 スリ
- 四 ウリ
- 五 リユウ
- 六 チイ
- 七 パイ
- 八 チユウ
- 九 フイ
- 十 百
- 千
- 萬

二を「リヤン」とも云ひます。

人に關する名稱

莊家(親又は東家) 必ず東であります。

散家 親をのぞいた他の三人のこと即ち南家・西家・北家

下家 自分の下の者右廻だから右隣の者

上家 自分の上の者左隣の者

對家 對門とも云つて向ひの者東と西南と北

起家 一番初めの莊家のこと一と勝負ごとに莊家が變るが

特に一番初めの莊家のこと。

場に關する名稱

井圈 百三十六牌を二個づゝ重ねた一邊十七組の四角(マス形)

河 井圈の中の牌捨場

開門 井圈に切口を作ること。

幘 三個づつ重ねた一組の牌

尾 開門の一幘(上下の二個)の上の牌を右六幘目重ね下の牌を

右一幘目に重ねて尾であることを明かにしたものと



桿カン尾ウイを作つくつた二個ニコの牌パイのこと

競技キョウギに關くわんしての名稱メイシヨウ

莊風チヨウフウ 場の風カゼで最初さいしよ東家トウシヤが親おやで次に南西北ナンシヤイペイと廻まはります。こう

して一いちと廻まはりすることを東莊トウシヤと云いひ二回にかいの一いちと廻まはりを

南莊ナンシヤ三回さんかい目を西莊シヤシヤ四回よかい目を北莊ペイシヤと云いひます又またこれ

を一いち莊シヤ・二莊ニシヤ・三莊サンシヤ・四莊スウシヤとも云いひこの四廻よわりを

一いち回かいと云いひます。普通ふつう二回にかいを以もつつて一いちと勝負しやうぶとします

連莊レンシヤ 東家トウシヤが和了わうらうした時とき續つづけて親おやをすることです(散家サンシヤには

連莊レンシヤがありません)

門風モンフウ(座風) 自分じぶんの風子フウシとあります。例たとへば今いままで南家ナンシヤの者もの

が親おや(東風)になれば西風シフウが南風ナンフウ、北風ペイフウが西風シフウ、東風トウフウが北

風フウとなる。これは常に役やくと大なる關係くわんけいがありますから研

究きうして下ください。

滿款マンカン 最大得點さいだいてん 點數てんすうと役やくの關係くわんけいで得點とくてんが幾千點いくせんてんとなることが

あります。大抵たいていの場合ばあひは最初さいしよにその限度げんごを幾點いくてんと定めま

す(普通ふつう三百點さんひゃくてん、或あるひは五百點ごひゃくてんです)

副フウ 得點とくてんのこと

福底フクテイ 得點數とくてんすう以外いげいに上あがりになつた者ものに與あたへた特別とくべつの賞しょうのこと

打牌タアパイ 麻雀マージャンをする人ひとのこと。

自摸ジモ 井圈チンチヨウから牌パイを取とること。

碰ポン 手に何等なんらかの對子トイツがありそれと同じ牌パイを他たの者ものが捨すてた時とき僅

といつて之これを取とります。碰ポンは自分じぶんの順番じゆんばんでなくともかま

ひません。

吃チイ 手に塔子トウツ或あるひは邊張ベンシヤ・嵌張カンシヤがあつて上家サンシヤが捨すてた牌パイが丁度ちやうど自

分ぶんに必要なひつたうものであつたら吃チイと云いつて取とることが出來でま

す。吃チイは上家サンシヤの捨すてた牌パイに限かぎつて居をります。然しかし碰ポンと聲



をかけた者があつた時は其の人に譲ります

翻<sup>フアン</sup>得<sup>とく</sup>點<sup>てん</sup>を二<sup>に</sup>倍<sup>ばい</sup>すること翻<sup>フアン</sup>牌<sup>ぱい</sup>が出來<sup>き</sup>る毎<sup>ごと</sup>に一<sup>いち</sup>翻<sup>フアン</sup>即<sup>すなは</sup>ち二<sup>に</sup>倍<sup>ばい</sup>する  
のですから二<sup>に</sup>翻<sup>フアン</sup>は四<sup>よ</sup>倍<sup>ばい</sup>、三<sup>さん</sup>翻<sup>フアン</sup>は八<sup>はち</sup>倍<sup>ばい</sup>、四<sup>し</sup>翻<sup>フアン</sup>は十六<sup>じゅうろく</sup>倍<sup>ばい</sup>と  
いふことになります

和<sup>わ</sup>了<sup>りょう</sup>(又<sup>また</sup>は榮<sup>えい</sup>)上<sup>あ</sup>りのこと、このかけ聲<sup>こゑ</sup>で全<sup>ぜん</sup>部<sup>ぶ</sup>の手<sup>て</sup>牌<sup>ぱい</sup>を公<sup>こう</sup>開<sup>かい</sup>  
します

平<sup>へい</sup>局<sup>きょく</sup>無<sup>む</sup>勝<sup>しょう</sup>負<sup>ふ</sup>のこと。

牌<sup>ぱい</sup>に關<sup>かん</sup>しての名稱<sup>めいしやう</sup>

生<sup>しょう</sup>牌<sup>ぱい</sup>未<sup>ま</sup>だ河<sup>か</sup>に一個<sup>いっご</sup>も捨<sup>すて</sup>られてない新<sup>あらた</sup>らしい牌<sup>ぱい</sup>即<sup>すなは</sup>ち生<sup>い</sup>きた牌<sup>ぱい</sup>の  
こと。

熟<sup>じゅく</sup>牌<sup>ぱい</sup>一個<sup>いっご</sup>又<sup>また</sup>は二<sup>に</sup>個<sup>こ</sup>河<sup>か</sup>に捨<sup>すて</sup>られて無<sup>む</sup>効<sup>きう</sup>になつた同<sup>どう</sup>種<sup>しゆ</sup>類<sup>るい</sup>の牌<sup>ぱい</sup>のこ  
と。

零<sup>れい</sup>牌<sup>ぱい</sup>三<sup>さん</sup>個<sup>こ</sup>捨<sup>す</sup>てられて最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>にのこつた一<sup>いっご</sup>個<sup>こ</sup>の牌<sup>ぱい</sup>のこと。

理<sup>り</sup>牌<sup>ぱい</sup>自<sup>じ</sup>分<sup>ぶん</sup>の手<sup>て</sup>牌<sup>ぱい</sup>を種<sup>しゆ</sup>類<sup>るい</sup>別<sup>べつ</sup>に揃<sup>そろ</sup>へること。

對<sup>たい</sup>子<sup>し</sup>一<sup>いっご</sup>の牌<sup>ぱい</sup>二<sup>に</sup>個<sup>こ</sup>のこと。

對<sup>たい</sup>死<sup>し</sup>一<sup>いっご</sup>の牌<sup>ぱい</sup>を二<sup>に</sup>人<sup>にん</sup>して最<sup>さい</sup>後<sup>ご</sup>まで持<sup>も</sup>つてゐて互<sup>たがひ</sup>に何<sup>なに</sup>にもなら  
なかつた時<sup>とき</sup>のこと。

刻<sup>こく</sup>子<sup>し</sup>三<sup>さん</sup>個<sup>こ</sup>の同<sup>おな</sup>じ牌<sup>ぱい</sup>のこと。

槓<sup>かん</sup>子<sup>し</sup>四<sup>し</sup>個<sup>こ</sup>の同<sup>おな</sup>じ牌<sup>ぱい</sup>のこと。

順<sup>じゆん</sup>子<sup>し</sup>二<sup>に</sup>・三<sup>さん</sup>・四<sup>し</sup>とか六<sup>ろく</sup>・七<sup>しち</sup>・八<sup>はち</sup>と云<sup>い</sup>ふ風<sup>ふう</sup>に數<sup>かず</sup>の續<sup>つ</sup>く牌<sup>ぱい</sup>のこと  
塔<sup>たう</sup>子<sup>し</sup>三<sup>さん</sup>・四<sup>し</sup>又<sup>また</sup>は七<sup>しち</sup>・八<sup>はち</sup>と云<sup>い</sup>ふ風<sup>ふう</sup>な數<sup>かず</sup>の前<sup>まへ</sup>か後<sup>うしろ</sup>かに數<sup>すう</sup>字<sup>じ</sup>順<sup>じゆん</sup>の牌<sup>ぱい</sup>  
が來<sup>く</sup>ればそれが順<sup>じゆん</sup>子<sup>し</sup>となり得<sup>うる</sup>る牌<sup>ぱい</sup>のこと。

邊<sup>へん</sup>張<sup>ちやう</sup>一<sup>いっご</sup>・二<sup>に</sup>とか八<sup>はち</sup>・九<sup>きゅう</sup>とか云<sup>い</sup>ふ風<sup>ふう</sup>に只<sup>ただ</sup>の一方<sup>いっほう</sup>よりしか順<sup>じゆん</sup>子<sup>し</sup>に  
なれない牌<sup>ぱい</sup>のこと(この場<sup>ばあひ</sup>合<sup>あひ</sup>三<sup>さん</sup>とか七<sup>しち</sup>とかをまつて順<sup>じゆん</sup>子<sup>し</sup>  
にする)

嵌<sup>かん</sup>張<sup>ちやう</sup>三<sup>さん</sup>と五<sup>ご</sup>或<sup>あるひ</sup>は七<sup>しち</sup>と九<sup>きゅう</sup>のやうに中<sup>なか</sup>が抜<sup>ぬ</sup>けてゐる牌<sup>ぱい</sup>のこと又<sup>また</sup>一<sup>いっご</sup>



個獨立してゐる牌のこと（この場合四とか八とかをまつて順子にする）

定牌||上りをまつばかりの状態のこと終りの二三手のこと。

王牌||尾から右に數いて六幢（十二個）開門した一幢（二個）を加へた十四個の牌のことで槓子を作る時以外に手を付けな  
い牌のこと、この前まで取り盡した時は平局（無勝負）に  
します。

海底牌||王牌から一つ前の牌で（終から數へて十五目の牌（自  
摸し得る最後の牌）

麻雀頭||和了となる時他の牌の如何にかゝわらず必ず一つの對  
子がなければなりません。和了たらしめる對子に限つて  
これを麻雀頭（略して麻雀）と云ひます。

役に關しての名稱

明刻||僅をして出來た刻子で必ず自分の前にその牌をさらしま  
す。

暗刻||自摸して出來た刻子のこと或は最初から三枚揃つてゐ  
た刻子であつて前に出さずに終りまで持つてゐてもよい  
が計算の時には二個を表に向けて一個を裏向にして置き  
ます。

明槓||手に明刻がある上に又それと同じ牌を自摸したものは  
又手に暗刻を持つてゐた時に誰か、同一の牌を捨てた時に  
槓と云つてこれを取つたもので右前に全部さらして置き  
ます。

暗槓||手に暗刻がある上に又それと同じ牌を自摸したものであ  
つて必ず右前にさらします。三個は裏向きに一個は表向  
にして置きます。



邊張和ベンチャンホウに手てに邊張ベンチャンの牌パイがあつて必要ひつたうな牌パイを得て和了ホウラフとなつたこ

とを云いひこの牌パイを向むかふ向むかきに立たて、置おきます。

嵌張和カンチャンホウに手てに嵌張カンチャンの牌パイがある時とき必要ひつたうな牌パイを得て和了ホウラフとなつたこ

とを云いひ其その牌パイを間あひだに挟はさんで向むかふ向むかきに立たて、置おきます。

單弔和タンチャホウに終つひに單弔タンチャを作つくつて和了ホウラフとなつたことを云いひその牌パイを向むか

ふ向むかきにして立たて、置おきます。

自摸和ジモホウに何等なんらかの牌パイを自摸ジモして和了ホウラフとなつた時ときを云いひ牌パイを向むかふ

向むかきにして自摸ジモした牌パイを積つみ重かさねて置おきます。

競技法キョウギホウ

人は右廻みぎまはりで牌パイは左廻ひだりまはりです。

麻雀競技マージャンキョウギは三人さんにんでも五人ごにんでもやれますが四人よにんでやるのが正せい規ぎであり  
ります。前者ぜんしやの三人さんにん五人ごにんの競技キョウギは後者ごしやの四人よにん競技キョウギほど興き味みがあり

ません。

そしてこの書しよは正せい規ぎの四人よにんの競技キョウギ法ホウを述のべる事ことにします。

起家チイチャの定きめ方かた

四人よにんの人ひとか定きまつたら碰ポン和ホウ拾シツ子シ(机つくえ)の四方はうに陣ぢん取とりますこれは假か  
りであります。皆みなが席せきに付つきましたら門風モンフウを現あらはす東南西北トナンシノベイの丸まる  
牌パイを出だし裏向うらむきにかきませ四個積よつみ重かさねます。それから誰たれか一人ひとりが  
二個ふたごの骰子サイイッを一度いちどに振ふります(この振ふるのは誰たれがやつてもよいの  
ですが禮儀れいぎとして年長者ねんちやうしや又は客人きやくじんよりやつてもらひます)今振いまふつ  
た骰子サイイッがかりに三さんと四よとが出でたとします加くはへると七しちになります振ふ  
つた人ひとから一いち・二にと數かずへて行ゆくと振ふつた人ひとの向側むかひがはの人ひとが當あたります  
その七番目はんなのめに當あたつた人ひとが重かさねた丸牌まるパイの上うへより右廻みぎまはりに順じゆんに取とつて  
行ゆきます。

丸牌まるパイの東トシを取とつた人ひとの右みぎに南ナンを取とつた人ひとが座すはり次つぎに西シ・北ベと順じゆんに



座ります。これでもまだ起者が決定しません。こゝでこんどは今東家に當つた人が前の様に骸子を振ります。二つの骸子の和だけ右廻りに數いて當つた人が本當の起者となるのです。再び順序に従つて南・西・北と座り直します。

起者が定まつたのですから起家の前に莊子(親の印)を置き東印の丸牌を出してをきます。この一莊の勝負が終つたら丸牌の東をひつこめて南の牌を出します。

牌の配り方

起家が定まつたら牌全部を机の上に出し裏向にしてよくかき混ぜますこれを洗牌と云ひます。それから二個づつ重ねて一邊を七七幢として樹形を作りますこれを井圍と云ひます。次に莊家が骸子を振つて出た數を右廻りに當つた人が後把です。こゝで後把の早分り法を記します

東家から一・二と右廻りに數へるのですから一が東者で、二が南家、三が西家ですが骸子は何時でも二個ですから二つの骸子の和は二より少ない數はありません。ですから一番に大きな數は六と六の和の十二であります。左の表をよく憶いてをくといち／＼一・二・三・四と數へて行く必要がありませんから便利です。

|          |          |    |
|----------|----------|----|
| 二個の骸子の和が | 五と九の時    | 東家 |
|          | 二・六・十の時  | 南家 |
|          | 三・七・十一の時 | 西家 |
|          | 四・八・十二の時 | 北家 |

後把がきまりましたら後把も骸子を振ります。この時出た數と前の莊家が振つて出た數の和だけ後把の前の右の端から左に數へて當つた所を開門して一幢(重れる二ヶ)の牌を取つて尾を作ります(寫眞参照)



尾が出来たら、莊家から南西北の順に二幢(四個)づつ三回十二個を取ります。

四回目に、莊家は上積の牌を一個と一つ飛んで一個を取り、次の南家は下の一個を取り、西家は飛ばされ上の牌を取り、北家はその下の牌を取ります。莊家十四個散家十三個づつを自分前に立て、列べます。これで戦の準備が出来たのです。

開戦

この競技は十三個の牌を十四(又は十八)個にして上るのです。先づ最初に莊家は十四個の中で不用と思ふ牌を一個河に捨てます。誰でもですが牌を捨てる時は其の牌が何んである聲を出して云ひます。むろん表向として他人が見える様にして捨てるのです。次に南家はこの牌が自分の順子を作るのに入用だつたら「吃」と云つてそれを取り「吃」して出来た順子を自分の右前に表向にして

並べてさらします。もしもその牌が不必要な時は井圈の中から分配した時の順に牌を一個自摸します。その自摸した牌が自分の持牌に何等關係が無いと思つたら不要ですから河に捨てます(今自摸したばかりの牌でも捨てる事が出来得ます)

次に西家は南家の捨てた牌を吟味して「吃」するか否かを見て不用なら自摸し入用なら「吃」して自分の持牌を一個河に捨てます。

北家もこれに習つて自分の和了を計ります。この様にして競技が續けられて行くのですが四人中の誰かゝら捨てられた牌が他の人に必要であり然もそれが何等かの刻子を作るのに足るものでしたらこの場合に限ぎりその者は「碰」と叫んで牌を取ります。

「吃」する時は自分の順番である必要が無く「碰」が出来ます。

もしも其の時に他の誰かゝ其の牌を「吃」したいと思つても「碰」の方に先取権がありますから「吃」を無視することが出来ます。



「碰」して出来た刻子は「吃」と同様に表向にして右前にさらします。若しも時分の手に對子でなく刻子であつた時には「槓」と叫んでこれを取ります。そしてこの四個の牌を右前にさらします。これを明槓と云ひます。「槓」も「吃」よりも先取權があります。明槓はすでに自分の手に明刻が出来て居た後に自摸した牌がそれと同じ牌である時にも云はれます。

「碰」した者は刻子を曝した後で持牌中の不用な一個を捨てます。槓した者は牌を曝した後で王牌の中から尾の一個を取つて不用な一個を捨てます。

碰又は槓をした者があると今まで何事もなかつた順が狂つて來ます。この時は碰・槓をした者の次の人下家が打牌を續けます。こうして競技が進行して行くうちに和了となつたら其の者は「榮」と叫びます。この時一切競技は中止され各自の得點の計算をするの

です。

この場合「碰槓」したい者があつても「榮」のままには全ての權利が無いのです。では「榮」と叫ぶのは何んな時か？ 原則として幾組かの順子・槓子・刻子と一組の麻雀が揃つた時です。次にその場合を七種に分けて見ることが出來ます。

和了の型 (七種)

1. 順子と麻雀の場合

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 六萬 | 七萬 | 八萬 | 七索 | 八索 | 九索 | 二筒 | 三筒 | 四筒 | 三萬 | 四萬 | 五萬 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|

|   |   |
|---|---|
| 發 | 發 |
|---|---|



2. 刻子と麻雀の場合

|    |    |    |   |   |   |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|---|---|---|----|----|----|----|----|----|
| 五索 | 五索 | 五索 | 東 | 東 | 東 | 三萬 | 三萬 | 三萬 | 一筒 | 一筒 | 一筒 |
|----|----|----|---|---|---|----|----|----|----|----|----|

|   |   |
|---|---|
| 中 | 中 |
|---|---|

3. 順子と刻子と麻雀の場合

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|
| 七筒 | 七筒 | 七筒 | 四萬 | 五萬 | 六萬 | 五索 | 六索 | 七索 | 西 | 西 | 西 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|

|    |    |
|----|----|
| 二索 | 二索 |
|----|----|

4. 順子と槓子と麻雀の場合

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|
| 一萬 | 二萬 | 三萬 | 六筒 | 七筒 | 八筒 | 五萬 | 六萬 | 七萬 | 北 | 北 | 北 | 北 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|

|   |   |
|---|---|
| 發 | 發 |
|---|---|

5. 刻子と槓子と麻雀の場合

|   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |    |    |    |
|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|----|----|----|
| 白 | 白 | 白 | 五索 | 五索 | 五索 | 中 | 中 | 中 | 四萬 | 四萬 | 四萬 | 四萬 |
|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|----|----|----|

|    |    |
|----|----|
| 七筒 | 七筒 |
|----|----|

6. 順子と刻子と槓子と麻雀の場合

|    |    |    |   |   |   |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|
| 七索 | 八索 | 九索 | 北 | 北 | 北 | 二萬 | 二萬 | 二萬 | 六筒 | 六筒 | 六筒 | 六筒 |
|----|----|----|---|---|---|----|----|----|----|----|----|----|



東  
東

7. 槓子のみと麻雀の場合

四筒  
四筒  
四筒

七萬  
七萬  
七萬

東  
東  
東  
東

一索  
一索  
一索

中  
中

又この他に特殊な和了が参種あります。

1. 十三不塔(十三無靠)の例

第一の自摸でどれかを麻雀になし得た時

五萬

一筒

發

九萬

中

八索

北

七筒

西

二索

東

南

白

2. 十三公九(國士無双)の例

十三牌が白公九牌であつてどれか一つを麻雀となし得た時

東

西

南

北

中

發

白

一萬

九萬

一索

九索

一筒

九筒

3. 七對子(對子七組)の例

對子が七組出來た時

白

白

九索

九索

五萬

五萬

北





こうして「榮」になるにも同一牌で二人が和了になる時はその捨てた者から右に數へて近い方の者に先優權があります。

もしも同一牌で三人が「榮」する場合には平局と云つて勝負なしにします。

莊家「榮」をした場合は四回親を續ける權利があつてこれを連莊と云ひます。

散家が「榮」をした時は次の南家に次は西家・北家と云ふ風に變つて行きます。

こうして北家が莊家になつた一と廻りの勝負を一莊又は東莊といひ次の一と廻りを二莊又は南莊次の一と廻りを三莊

又は西莊次の四莊又は北莊と云ひます。

右の様にして北家が莊家になつたまでの一と廻りの勝負を一回と言つて、これを二廻繰返して勝負の得點を計算します。

支那などの閑人は、十六莊を一勝負としたり又二晝夜通して勝負するなど、言ふ呑氣な者も居ります。普通行はれてゐます二回の勝負をするにして連莊が無くて三十二回の勝負をしなければなりません。

得點の計算

得點の計算はすつかり呑み込むまでは非常に面倒ですから、よく研究する必要があります。本によつて多少計算の方法が異なつて居りますが、これから研究する計算法は普通行はれてゐる計算法を用ひます。



一、誰でも共通な基礎得点(副)

中張牌(ニヨリハマデ) 公九牌(三三元四風老頭牌)

麻雀頭 ○ 二副

明刻 二副 四副

暗刻 四副 八副

明槓 八副 十六副

暗槓 十六副 三二一副

二、和了した者だけに適用さる得点

A 副底(上つた者への恩典) 二十点

B 自摸和 二点(尾から自摸して上る時は無効)

C 邊張和 二点(自摸すれば四點)

D 嵌張和 二点(自摸すれば四點)

E 單吊和 二点(自摸すれば四點)

F 翻牌の單吊和 四點(自摸すれば六點)

三、翻牌の得点

三元牌(中發白)と門風及び莊風の刻子又は槓子であれば牌自身の得点のほかに一翻と云つて、全部の得点を倍にして計算します。連風の時には、二翻(倍の倍)にして計算します。

四、得点の計算基準(得点の取引)

得点の取引法には、三種あります「公半」「公二」「公四」であります。普通「公二」が多く用ひられます。

これは、四のものは四、五のものは五と、計算しますが、公半は二分の一で計算し、二四は、得点を倍に計算します。本書は、公二の方法によつて、説明しますから心得て居て下さい。

和了した人は、他の者の得点を、無視して絶対に支拂ふことが無く、他の三人から自分の得点だけづゝも取ります。(自分の得点が



二十五點の時は、七十五點を得ます。

莊家はすべての計算を二倍にして取引します。(勝つた時も負けた時も)

こゝで大いに注意することは「相互の得點の差を倍にする」と言ふ事ですが、例をあげて説明しますと、假に莊家が十五點、散家が三十點であつた時は、三十點から莊家の十五點を引いた残りの十五點の倍即ち三十點を散家に拂ふのです。

得點の取引は、四捨五入をします。この四捨五入は計算が終つてから用ひるので、途中で用ひてはいけません。

滿款とは、最大の役を言ふ事で、其の得點は普通四百點から五百點と計算されてゐますが、これには、一定の規則はありませんから、競技の前に定むべきであります。

和了の時の役次第で幾千點になることがありますが、座が白けて

面白くありませんから是れを防せぐために、滿款を制限します。

滿款なる役が出來た時は、滿款としてだけ計算して、普通の役や副庭やその他は計算に入れません。滿款しない人の中にも、時々滿款より以上の數に達する時があります。この時得點の差が滿款以上になつても、滿款役の者に對して、敬意を表するために滿款の點數だけ仕拂へばよい事になつて居ります。

### 特別な上り役

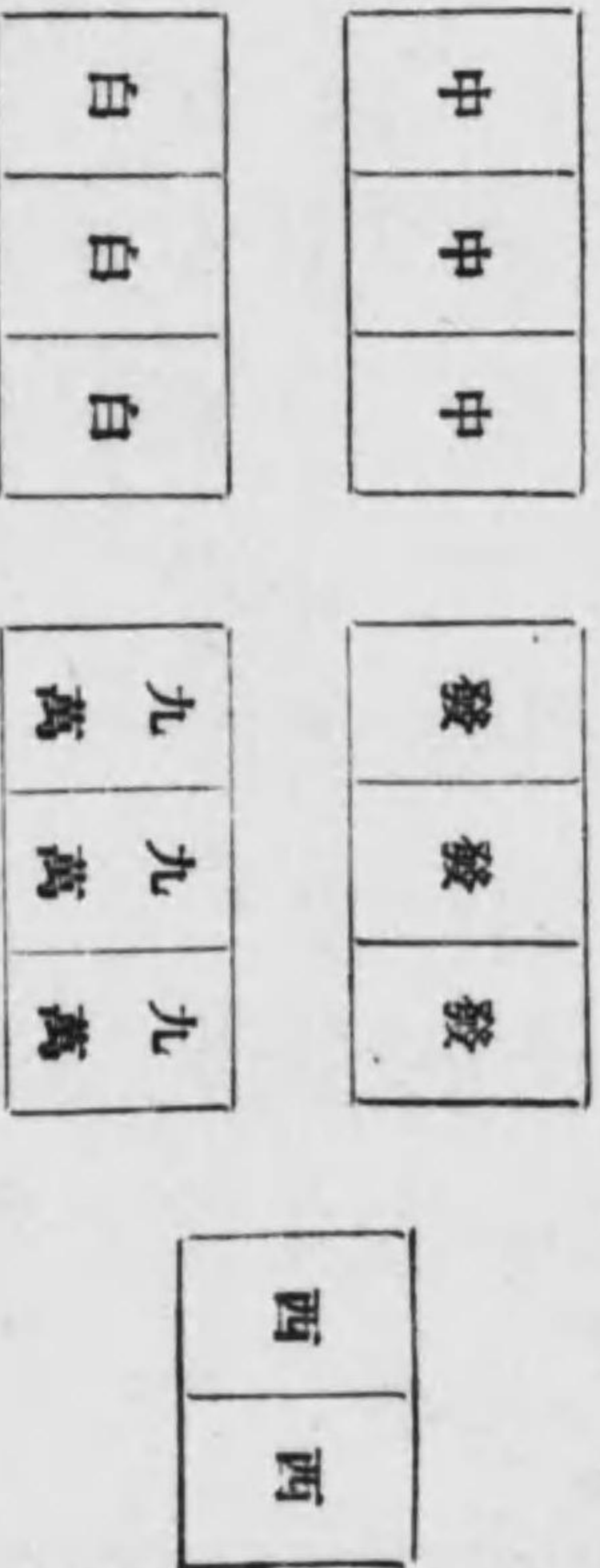
▲天和(滿款) || 莊家が最初の配牌の時から和了が出來て居たとき。

▲地和(滿款) || 莊家が第一回目に捨てた牌で和了になつた時。

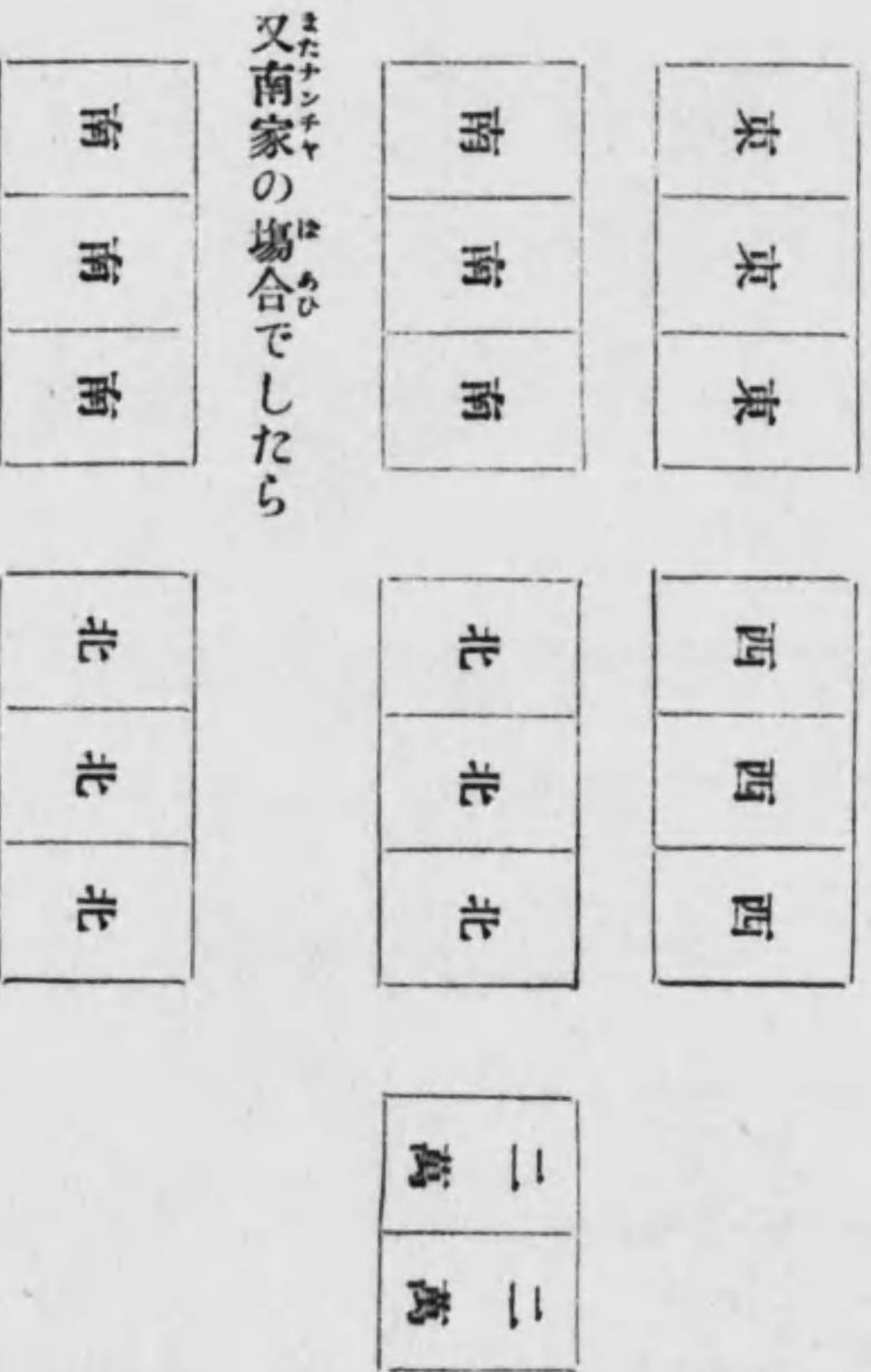
▲人和(半滿款) || 最初の一通りの間に散家の捨てた牌で和了となつた時、この間に碰をするものがあつて一人或は二人飛ばされ



る事があつても、再び莊家（チヨウシヤ）が手を出す順序（ジヨウジヨ）となつた後では全其の權利（ケンリ）を失つてしまひます。  
 ▲三元和（マンガン）（満款） 中發白（チュウハツパイ）の三種（シヨウ）が和了（ホウラフ）となつたとき、（他は何であつてもいゝのです。）



▲四喜和（シキホウ）（満款） 東西南北（トウシヤンペイ）の各四牌（カク）が全部揃つて和了（ホウラフ）となつた時  
 又は門風以外（カドカゼイガイ）の風子（フウコ）が麻雀頭（マージヤンコウ）となり他の三組（タ）が揃つて和了（ホウラフ）した時。





|    |    |    |
|----|----|----|
| 西  | 西  | 西  |
| 五索 | 五索 | 五索 |
| 東  | 東  | 東  |

▲字一色(滿款) || 三元牌と四風牌とのみで他に何もませずに和了した時。

|   |   |   |
|---|---|---|
| 中 | 中 | 中 |
| 北 | 北 | 北 |

|   |   |   |
|---|---|---|
| 東 | 東 | 東 |
| 南 | 南 | 南 |
| 白 | 白 | 白 |

▲清老頭(滿款) || 老頭牌(一と九の牌)で和了となった時。

|    |    |    |
|----|----|----|
| 一萬 | 一萬 | 一萬 |
| 九索 | 九索 | 九索 |
| 九索 | 九索 | 九索 |

|    |    |    |
|----|----|----|
| 一筒 | 一筒 | 一筒 |
| 九萬 | 九萬 | 九萬 |
| 一索 | 一索 | 一索 |

▲三槓子(滿款) || 明槓でも暗槓でも三組の槓子を揃へて和了した時。

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 八萬 | 八萬 | 八萬 | 八萬 |
| 中  | 中  | 中  | 中  |



|   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 七 | 七 | 七 | 七 | 四 | 五 | 六 |
| 索 | 索 | 索 | 索 | 筒 | 筒 | 筒 |

|   |   |
|---|---|
| 北 | 北 |
|---|---|

▲四暗刻(満款) || 四組の暗刻だけで和了した時。

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 白 | 白 | 白 | 二 | 二 | 二 |
| 筒 | 筒 | 筒 | 索 | 索 | 索 |

|   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 六 | 六 | 六 | 南 | 南 | 南 | 五 | 五 |
| 筒 | 筒 | 筒 | 筒 | 筒 | 筒 | 萬 | 萬 |

▲十三不塔(満款) || 分配された十三個の牌が孤立して 莊家の最

初の捨牌か或は第一回の自摸でとれた一つが麻雀を作り得た、これを特別に十三不塔と云つて和了とします。もしその中に塔子邊張があつた時や、又二回目後は無効であります。

▲十三公九(満款) || 公九牌だけが一個づゝ揃ひ、その中のどれかが麻雀とたつた時、公九牌が東西南北、中發白、一筒、九筒、一索、九索、一萬、九萬の、十三種であります。この十三公九に限り槍槓をすることが出来ます。槍槓とは、他の者が何かの明刻を持つて居り残りの一牌を自摸して明槓となさうとした時、もしも其の牌を得れば和了になるものがあつた時には、其の牌を取る権利があります。これを槍槓と、言ひます。そこで、十三公九に限つて明刻でなく暗刻を持つてゐて、暗槓しやうとした時にでも槍槓する権利があります。そのかわり出来た和了は満款としての権利を失つて、槍槓としての一翻だけ



の役に なります。.....

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 中  | 發  | 白  | 一筒 | 九筒 | 一索 |
| 九索 | 一萬 | 九萬 | 東  | 西  | 南  |
| 北  | 北  |    |    |    |    |

▲九連寶燈(滿款) || 萬子、索子、筒子のうちの何れか、一種類だけで、一から九まで揃ひ、然も同種類の刻子と、麻雀とが出来た時で、これは後に述べてある清一色と一氣通貫とが重つて和了となつたものであります。清一色を作らうとして都合よくこ

れが出来る場合があります。

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 一筒 | 二筒 | 三筒 | 四筒 | 五筒 | 六筒 |
| 六筒 | 六筒 | 六筒 | 七筒 | 八筒 | 九筒 |
|    |    |    | 九筒 | 九筒 |    |

▲清一色(三懸) || 九連寶燈の簡單なもので、同一種類の牌で和了になつた時であります。

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 二萬 | 三萬 | 四萬 | 三萬 | 四萬 | 五萬 |
|----|----|----|----|----|----|



|    |    |    |
|----|----|----|
| 七萬 | 七萬 | 七萬 |
| 八萬 | 八萬 | 八萬 |
| 一萬 | 一萬 | 一萬 |

▲不吃不吃(二翻) 牌が分配されたとき直きに、和了になる自信があるなれば、最初の一廻がすむ前に、不吃不碰と宣言して、自分の全部の牌を、裏向に倒して牌を取替へことなく和了した時の事を云ひます。この宣言は最初の一廻りが、全くすむまでにすればよいのでありますから、最初の一廻は吃しても碰しても、又自摸してもいゝのであります。

是れは、人和地和に、甚だよくにて居りますから、二翻に、眼がくらんで、考へがなしに、宣言しない事です。一回の碰、吃、自摸によつて、自分の手が、どんなにか有利に變るか知れません。次の様な時に、

|   |   |    |    |    |    |    |    |    |
|---|---|----|----|----|----|----|----|----|
| 中 | 中 | 六索 | 七索 | 八索 | 五筒 | 五筒 | 五筒 | 三萬 |
|---|---|----|----|----|----|----|----|----|

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 四萬 | 五萬 | 六萬 | 八萬 |
|----|----|----|----|

七萬が手に入れば、和了ですがこれを、早速不吃、不碰などしないで、自摸して、二萬が出たとしたら、八萬を捨て、一萬、四萬、七萬の三つのうちの、何れかを待つことにする法がいゝのであります。

これは門前清と清平和の二役の重りで、三翻を得られます。もしも宣言した後で、これを取消した場合には、出来た得點を半減されます。



七對子(二翻) || 對子が七組揃つた時で特別に和了にします。

|    |    |    |
|----|----|----|
| 北  | 三萬 | 七筒 |
| 北  | 三萬 | 七筒 |
| 五索 | 白  | 發  |
| 五索 | 白  | 發  |
| 東  |    |    |
| 東  |    |    |

▲門前清(一翻) || 吃、碰、槓等もせず場に一つもさらさないで、和了になつた時で、和了前最後の牌だけ、河から拾つても構いません。

▲小四喜(二翻) || 四喜和では門風が麻雀になつては、いけなかつたのですが、これは、門風が麻雀となつたとき、例へば、南家が次の様なとき、

|   |    |   |
|---|----|---|
| 東 | 西  | 南 |
| 東 | 西  | 南 |
| 東 | 西  | 南 |
| 北 | 五萬 | 南 |
| 北 | 六萬 | 南 |
| 北 | 七萬 | 南 |

▲平和(一翻) || 刻子も、槓子もなく最後に、邊張、軟張、單吊もなく、自摸もないで最後の牌を吃の形式で捨つた時、次の様な時。



|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 三筒 | 四筒 | 五筒 | 一索 | 二索 | 三索 | 五萬 | 六萬 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 七萬 | 六萬 | 七萬 | 八萬 | 二萬 | 二萬 |
|----|----|----|----|----|----|

一索。五萬。七萬。八筒。五筒。六筒。三筒。の七個の中の何れか一個を上家が捨てたときに、平和が出来ます。前例の様な時に、一個の一索が無くて、代りに、四索があつたとしたならば、清平和であります。

▲小三元(一翻) || 三元(中發白)を三組とも揃へれば、二元和となつて、満款であります。もしも其の中の一組が、三個揃はずに麻雀としてある時は、小三元となります。

|    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|
| 一筒 | 二筒 | 三筒 | 四萬 | 五萬 | 六萬 |
|----|----|----|----|----|----|

|   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 發 | 發 | 發 | 中 | 中 | 中 | 白 | 白 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

▲三暗刻(一翻) || 暗刻が三組出来て、和了となつた時。

|   |   |   |    |    |    |
|---|---|---|----|----|----|
| 北 | 北 | 北 | 五索 | 五索 | 五索 |
|---|---|---|----|----|----|

|    |    |    |    |    |    |   |   |
|----|----|----|----|----|----|---|---|
| 九萬 | 九萬 | 九萬 | 二萬 | 三萬 | 四萬 | 中 | 中 |
|----|----|----|----|----|----|---|---|



▲公九和(一翻) || 字牌と老頭牌だけで和了となつた時。

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 東  | 東  | 東  | 中  | 中  | 中  | 一萬 | 一萬 |
| 一筒 | 一筒 | 一筒 | 九索 | 九索 | 九索 | 一萬 | 一萬 |

▲断公九(一翻) || 中張牌だけで、和了したとき。

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 三筒 | 三筒 | 三筒 | 二萬 | 二萬 | 二萬 | 八萬 | 八萬 |
| 五索 | 六索 | 七索 | 三筒 | 四筒 | 五筒 | 八萬 | 八萬 |

▲混一色(一翻) || 索子、萬子、筒子の三種類の中のどれか一種だけに、幾つかの字牌が混つて、和了した時。

|    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 中  | 中  | 中  | 一萬 | 二萬 | 三萬 | 九萬 | 九萬 |
| 四萬 | 五萬 | 六萬 | 六萬 | 七萬 | 八萬 | 九萬 | 九萬 |

この例の様な場合に、刻子の代りに三萬、四萬、五萬とでもなつたなら、清一色となつて、三翻になります。又中の刻子の代りに、九萬と、六萬と、三萬とでもはいらふものなら、九連寶燈の、満款役であります。次の通り



|    |    |    |
|----|----|----|
| 一萬 | 二萬 | 三萬 |
| 三萬 | 四萬 | 五萬 |

|    |    |    |
|----|----|----|
| 六萬 | 七萬 | 八萬 |
| 九萬 | 九萬 | 九萬 |

|    |    |
|----|----|
| 六萬 | 六萬 |
|----|----|

又これが、次の様な場合は、

|   |   |   |
|---|---|---|
| 發 | 發 | 發 |
| 東 | 東 | 東 |

|    |    |    |
|----|----|----|
| 南  | 南  | 南  |
| 五筒 | 六筒 | 七筒 |

|   |   |
|---|---|
| 中 | 中 |
|---|---|

いまま少しの所で、字一色の満款役を作る事が出来ます。これは丁度清一色や字一色などの、出来損ひであります。

▲對々和(一翻) || 刻子と槓子とで和了となつた時で、順子が一組も混じらないで、暗刻、明刻、暗槓、明槓などどちらでもよいのであります。

|    |    |    |    |
|----|----|----|----|
| 白  | 白  | 白  | 白  |
| 五萬 | 五萬 | 五萬 | 五萬 |

|    |    |    |
|----|----|----|
| 發  | 發  | 發  |
| 川筒 | 川筒 | 川筒 |
| 七索 | 七索 | 七索 |

▲一氣通貫(二翻) || 九連寶燈の出来損ひで萬子、筒子、索子の内一種の牌が、一から九まで順子となつて和了した時で、他は何



であつても、よいのであります。

▲槍槓(一翻) || 十三公九の時に少し述べておきました。これは他のものが、明刻を、持つてゐて、最後の牌を、堪て明槓にしようとした場合に、自分がその牌を得れば、上りとなる手であつた時は、他人の牌を、奪ふ権利があります。これは、明槓に限つて、ありますから、暗槓では、それは出来ません。

▲海底撈月(一翻) || 王牌の前の牌で、和了となつたとき。

▲嶺上開花(一翻) || 暗槓か明槓か出来て尾から、牌を取つて来た

ときに、都合よく、和了となつたとき。

x x x x x

これで大體役の説明も終わりました。

こゝで初心者の最も注意する事は、役が二つ以上重つたことを、見逃さない様にする事です。満款の場合には、どんな時でも、重

りを、計算に入れないのですが、その他の時はこれを、計算します。又この前述した役の中で、五つばかり役として、考へられない所もありません。(門前清、一氣通貫、斷公九、十三不塔、七對子)等であります。

### 得點の表示

こゝで麻雀技の作法として得點を誰にも一目瞭然する様に一定した列べ方があります。

▲暗刻は明刻と區別するのに二個は表を向け一個をその上に表向にしてのせます。

▲邊張和の時はその牌を立て、向ふに向けて立てます。



▲嵌張和の時はその牌を間にはさんで向ふ向にして立てます。  
 ▲單張和の時にはその牌を列べて向ふ向にして立てます。  
 ▲自摸利の時にはその牌を向ふ向にして牌の上を立て、重ねます。

▲暗槓は二個を表向にし二個は裏向にして兩側に置きます。

邊張和

單吊和

自摸嵌張和



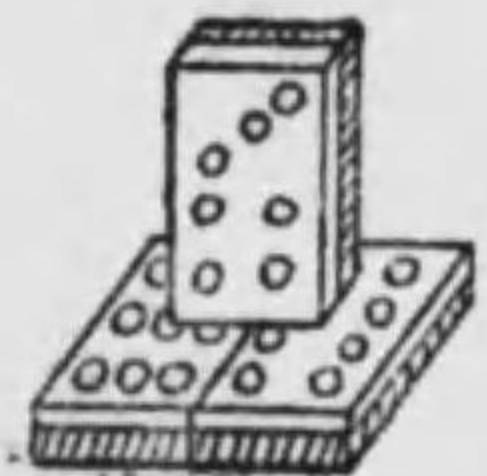
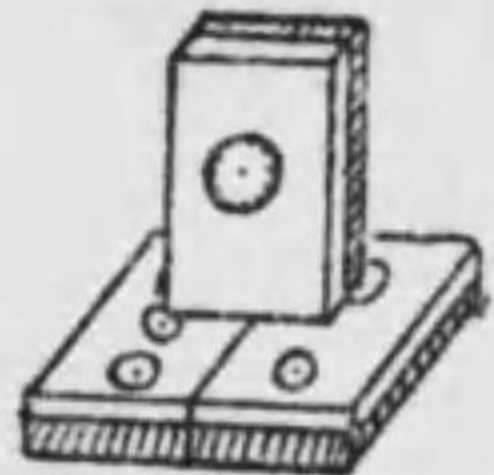
自摸單吊和



嵌張和

自摸和

自摸邊張和

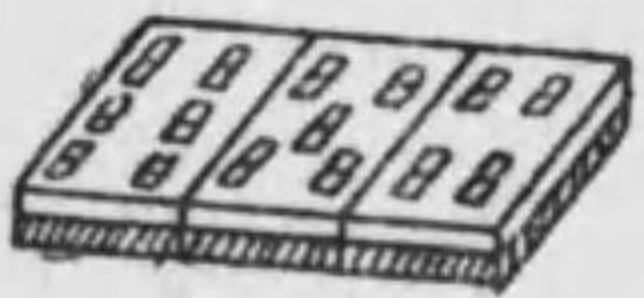
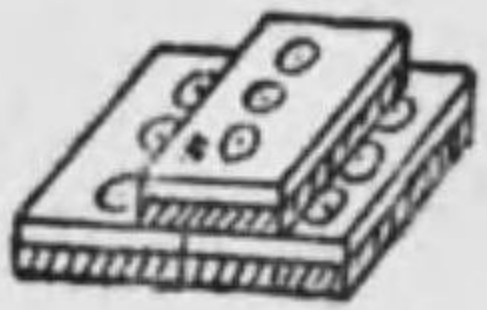
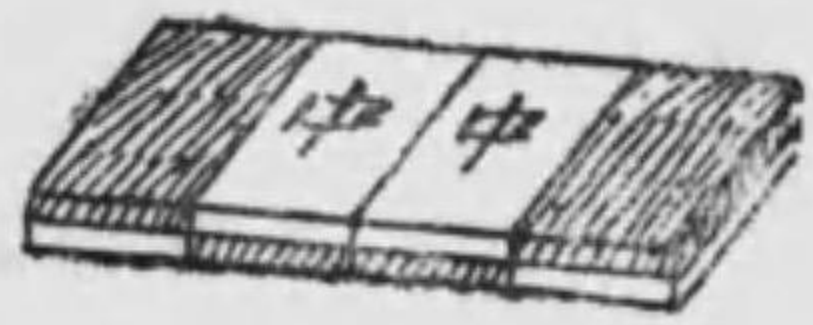


以上の七種は前方を向けて(自分には裏向)表示します。

暗槓

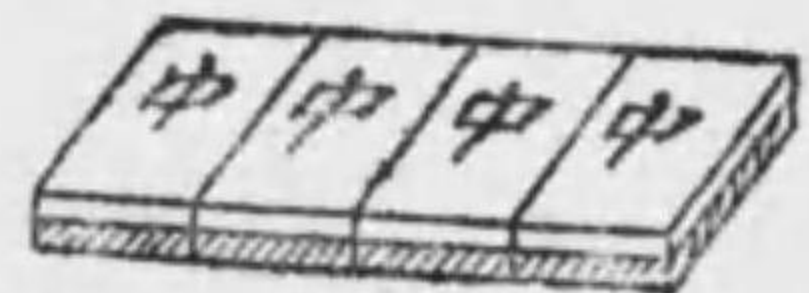
暗刻

兩面和





明  
槓



平

局

明  
刻



平局とは、勝負なしのことで、四つの場合があります。

(1) 海底牌(王牌)前の牌を自摸しても誰も榮になる者がなく、莊家は、次に譲ります。

(2) 一人の捨てた牌を、三人がねらつて、三人共榮をなし得るときもし二人の時は、榮の権利は、捨牌した者に近いものにあります。

この様な場合は、莊家は、連莊になります。

(3) 牌が分配されたとき、公九牌が九種(九個に非ず)以上が来たならば、場に公開して、平局することが出来ます。

もしも、自分に十三公九でもやる、野心があつたら、黙つてゐてもよいのです。

自分の見間違ひから、平局などして、罰を受けぬやう注意が必要です。

(4) 最初通りに、東家の捨牌と同じものを、他の三人(南西北家)が次いで、捨てたときで、こんな場合は稀であります。又こんな事は、誰れか一人が、一廻り目に、同じものを、捨てなかつたら防ぐことは容易であります。

罰

則



罰として定められてあるだけに、善意に解かれてありますから、罰にふれぬ様注意しなければなりません。この罰則は、これから麻雀を初めやうとする、初心者間には、不用に思ひますから略して、何れかの機會で述べる事に致します。

作戦

理牌とは牌が配ばられた時のまゝでならべて見ると各種が入亂れて一寸見當がつきません。これを種數別にならべるか又は數字順にすることを云ふのです。これはなるべく敏捷にやらなければなりません。理牌は見落しや見損ひなどが無いやうにするために是非とも必要な事でありませす。

捨牌の一般的法則「どんなものが不用か」「どんな牌が入用か」多くの場合初めの二廻りや三廻りでどんな役が出来るか少しも見當が

つきません。こうした時に捨て牌の一般的法則によつて捨てるやうにします。

◎ 獨立した牌から捨てる

この獨立した數種の牌のうちでも

◎ 他の風から捨てる

そしてなるべく右廻り順で近い人の風子から捨てますが、自分が莊家でない時には東風から捨てた方がよいと思ひます。

◎ 老頭牌から捨てる

老頭牌は端牌で片方からしか順子になりませんが、中張牌の様に兩方から順子を作るのに融通がきくませんから手遅れになりがちです。

總じて定牌まではなるべく自摸だけによるといふ様に練習する事が大切であります。



これは吃や碰をすると他の者に自分の手が知れると云ふ損な事があります。

競技をする前に協定すべき条件

始終手合せて居る人は別として初めての人と他人と競技をする時は必ず次の条件を定めてから競技を始めます。

- 一、副底をきめること (二十點)
- 二、満款副をきめること (四百點)
- 三、競技回数(八莊二〇)
- 四、莊風を翻牌とするかしないか(翻牌とします。)
- 五、計算の基準をきめる(公二)
- 六、役の使用せないものをきめる(「特別な上り役」の終り参照)

結び

以上は、麻雀競技に對して、出来るだけ述べて、来たつもりですが、麻雀を始めてやろうとする、皆様方に、解り難い所があつたかもしれませんが、幾度も讀み研究されて、不明の點は、本俱樂部に、御問ひ合せ下さい。直ちに御答へ致します。





麻雀得點記錄表

(昭和 年 月 日)

|    |    |    |    |    |    |    |    | 氏<br>名 | 莊<br>風 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|--------|
| 計果 | 數點 | 計果 | 數點 | 計果 | 數點 | 計果 | 數點 |        |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊一     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊二     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊三     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊四     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊五     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊六     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊七     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊八     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 計合     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 級等     |        |

麻雀得點記錄表

(昭和 年 月 日)

|    |    |    |    |    |    |    |    | 氏<br>名 | 莊<br>風 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|--------|--------|
| 計果 | 數點 | 計果 | 數點 | 計果 | 數點 | 計果 | 數點 |        |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊一     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊二     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊三     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊四     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊五     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊六     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊七     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 莊八     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 計合     |        |
|    |    |    |    |    |    |    |    | 級等     |        |



329  
373

不許複製製

昭和五年五月十日印刷  
昭和五年五月十五日發行

編輯者 加藤  
東京市下谷區上根岸町九六

印刷者 渡邊新吉  
東京市淺草區松葉町一二三

印刷所 文榮舍印刷所  
東京市淺草區松葉町一二三

發行所 東京麻雀俱樂部

定價金壹圓八拾錢



終